

台風注意

8月お盆休みには台風10号の影響で帰省先での家族にとっては帰路が混乱したようだが、秋風と共に台風の季節到来。 昨年は迷走台風にイライラさせられたが、最近では台風と相まって、降雨線状帯と言われる急襲豪雨が被害を増大させている。 そろそろ秋の雲になる筈だが、昨今は季節の変わり目が読めないことが多い。 まだまだ、夏特有の入道雲が空高く立ち上がる奇怪な気配もあるが、常日頃から、気象情報に留意して防災を意識して自らを守ることを習慣にしたい。

夏休みの収穫

今年も過去の最高気温を更新し、連日の暑さと共に思考力さえ疎かになり、夏休みは屋内を最適空間として多くの特集番組や映画鑑賞を決めた結果、二つの有益な学びを得られた。

その一つは「タイタニック沈没」処女航海で1912年4月14日(大正元年)北大西洋海域にて氷山に接触し、翌未明に沈没、今でも船体は4000mの海底に眠っているそうだ。

1,513名の死者、生存者771名の大事故「SOS(Save Our Ship/Soules)」はこれを機に Soules (命を守る) という法律で国際信号となり、一般的に使われることとなり世界的には500Mhzの沈黙時間帯(通信傍受・毎時2回3分間)と80年もの間、守られてきたものでアマチュア無線家の小生も感慨を新たにした。

1992年に国際的遭難信号 GMDSS(Global Maritime Distress and Safety System) となり現在では「メデー (Mayday)」となっている。

さて、もう一つは「コスタリカの奇跡(恒久的制度として軍隊を廃止した国)」の映画、現在196カ国中、軍隊のない国家は25カ国もあることに驚いた。

軍隊の定義は解らないが、日本も軍隊ではなく自衛隊と称しているが、国際的には多くの国と同様「軍隊」と解釈されている。このコスタリカは中米、パナマとニカラグアに挟まれた国で九州+四国くらいの国土、人口500万人足らず、過去には大国の脅威に翻弄されつつも1949年に軍隊を廃止、70年余りの歴史を持つ。知性と勇気の宣言をしたホセ・フィゲレイザやノーベル平和賞を受賞した元大統領オスカー・アリアは軍事費を教育、医療、環境に費やすことで豊かな国創りを国家理念として現在に継続していることに驚嘆する。さらには近隣諸国も含めた地球規模での平和構築に及ばなかったことを未来の理想像として持ち続けたいと政府、国会一体で志向している国があることに思いを巡らすと我が国の行く先を熟考したい。

TOPICS

- 1、業務用 大型浴水循環濾過装置 新設工事竣工検査試験
(1) 鎌倉市 古民家F民宿 8/10 (2) 箱根町 新築Sホテル 8/23 (3) 伊豆の国市 B老人ホーム 8/21
- 2、業務用 大型浴水循環濾過装置 大規模修理+ボイラー修理 横須賀市 R老人ホーム 8/13
- 3、業務用 大型浴水循環濾過装置 更改提案 横須賀市 R老人ホーム 8/10